

Alterations in Kumite Techniques and the Effects on Score Rates following the 2013 International Judo Federation Rule Revision

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2016-03-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 潔 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003240

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 32 号

Alterations in Kumite Techniques and the Effects on Score Rates following the 2013 International Judo Federation Rule Revision

(2013IJF 競技ルール改正に伴う組手戦術行動にみる柔道投技スコア比率の変化)

伊藤 潔 (いとう きよし)

博士 (スポーツ健康科学)

論文審査結果の要旨

【研究目的の特徴・独創性・論理性】

従来の競技分析は公式データを用いての検討が殆どであるが、本研究では投技の戦術行動に至る過程に視点をあてて検討を行った。加えて、複雑な組手戦術行動をグリップ数、グリップ部位で整理し、ルール改正前後の有効な投技に至る組手戦術行動の変化を明らかにした点に独創性と論理性がある。

【研究方法の妥当性】

世界最高峰の大会 (グランドスラム) を研究資料とし、調査データは連結可能匿名化として倫理的に配慮されている。講道館柔道高段者 3 名を分析者とし、全ての分析者の意見が同一のものを有効データとした。スコア比率の差の検討には χ^2 検定を用いて検証し、妥当性や信頼性は確保されている。

【結果・知見の新しさ】

ルール改正後に襟と袖を掴み、組替えることなく、直ちに攻撃するスタンダードな組手戦術ではなく、3 回以上グリップチェンジしてからの施技、および、襟、袖とは違う部位をグリップしての施技による組手戦術の有効性が示唆された。これらの結果は従来の競技指導指針と異なる新たな知見である。

【考察および結論の妥当性】

先行研究は本研究での考察を支持しており、本研究では先行研究の考察をもとにグリップ数やグリップ部位を用いて論理的に考察されて展開されており、妥当性は確保されている。結論は考察より適切に導かれ、本研究で得られた知見をもとに組手戦術の開発を提言しており、極めて妥当である。

【研究の当該分野における位置づけ】

本研究での知見は我が国で有効とされているスタンダードな組手戦術に一石を投じることになり、将来の組手戦術の開発に意義あるものである。本研究は全日本柔道連盟からの資料提供を受けて行われ、研究結果は既に強化スタッフにフィードバックされ、国際大会で戦術資料として、現場で活かされている。

【質疑に対する応答の適切性】

質疑に関しては、真摯に回答する態度がみられた。応答の適応性については、やや説明に困惑する場面があったものの適切に対応できていた。

【学位申請者の研究能力】

申請者は研究者として活動を始めたこの5年間で多くの学会やシンポジウムでも専門性の高い発表を展開しており、I Fに裏付けされた欧文学術誌にも原著論文を多く採択されている。また、全日本チームのデータを分析する競技分析研究者としての信用と責任も確立されている。

【学位授与の可否】

審査会は、本研究が独創性、論理性に富み、信頼性、客観性に基づく博士論文であると認め、最終審査を受けるにふさわしいと判断し、主査、副査ともに最終審査への提出を認めた。